保険者国保事業紹介

好評の簡易人間ドック、腹部超音波検査も
一斉健康診断は８５０～８６０人が受診
被保険者数の減少に悩む

――――――――――――京都市中央卸売市場国保組合

今年から特定健診・保健指導が保険者に義務付けられますが、当組合では従来から生活習慣病早期発見・治療のための健診事業には力を入れています。簡易人間ドック、一斉健康診断とも好評で効果を上げており、ドック受診補助も行っています。しかし、被保険者数減少の悩みは深刻です。

国保の概況

業界の団結に寄与・組合の歴史

当組合は昨年、結成５０周年の節目を迎え、組合員家庭に記念品を配布しました。発足当時の昭和３０年代、零細個人事業者の多かった市中央卸売市場では、要望の強かった社会保険の適用が難しく、国保組合結成が模索されました。各業種間の連携がまだ十分取れていなかった時代で、経過は曲折を重ねましたが、ようやく昭和３２年７月１日に設立に至りました。設立当初は理想の１０割給付を実施しましたが、赤字決算となり、昭和３４年度からは７割給付となっています。

設立の経過からも国保組合は、卸売市場内各業界の話し合いの場としての宿命を帯びており、理事長職は２年の任期ごとに鮮魚、青果、塩干三部門が持ち回りで担当することにしています。これによって業界の円満な発展に寄与してきました。

組合員減少に悩む・現況

当組合は設立当初、被保険者数は４３００人を数えました。その後、業界では流通機構の変革により経営形態の大型化、法人化が進行、社会保険への移行、廃業などで被保険者数の減少が続きました。平成１８年度末で被保険者数は１２００人弱になっていますが、被保険者数の増加は、今後ともまったく望めません。４月からの後期高齢者保険制度の発足に伴って同保険へ移行する被保険者が８０人を超え、組合運営は一段と厳しさを増すことになります。

保健事業の取り組み

無料で本格的な健診・簡易人間ドック

当組合では、高血圧や糖尿病など生活習慣病の早期発見・早期治療を目的として毎年、生活習慣病検査（簡易人間ドック）を無料で実施しています。市場休業日（水曜日）を利用して、２日間に亘って計１４０人が受診します。胃部Ｘ線撮影や血液検査などのほか腹部超音波検査まで行う本格的な健診です。被保険者からは非常に好評で、当日は会場の市場厚生会館やレントゲン車３台が並ぶＪＲ高架下は受診者で賑わいます。

市場従業者の一斉健康診断

また当組合では、中央市場厚生会、中央市場六団体青年協議会と共催で、市場従業者の一斉健康診断を行っています。市場休業日の一日に胸部Ｘ線撮影、血圧測定、検尿（蛋白、糖、ウロビリノーゲン）を行う簡単なものですが、好評で毎年８５０人以上が受診しており、今年からは特定健診に位置付けて受診率向上に資することを検討しています。

ドック補助、常備薬配布など

健診補助はほかに半日ドック、脳ドック、肺ドックをいずれも１万円の被保険者負担で、節目健診を無料で実施しています。常備薬は、薬品のほかに毎年テーマを設定して消毒石鹸や歯ブラシなども配布、年末には健康カレンダーを各家庭に届けています。

また健康増進施設利用補助は、京都エミナース竹の郷の割引利用券が好評で、毎年１５００人以上が利用しています。

年度別組合員数・家族数の推移（人）

年度		組合員数（人）	家族数（人）	合計（人）
１４	延数	６，１８９	９，８１５	１６，００４
	月平均	５１６	８１８	１，３３４
１５	延数	５，８８７	９，２１７	１５，１０４
	月平均	４９１	７６８	１，２５９
１６	延数	５，７８０	９，０３２	１４，８１２
	月平均	４８２	７５３	１，２３５
１７	延数	５，６４６	８，７２０	１４，３６６
	月平均	４７１	７２７	１，１９８
１８	延数	５，４８５	８，４２９	１３，９１４
	月平均	４５７	７０２	１，１６０